

田屋城跡

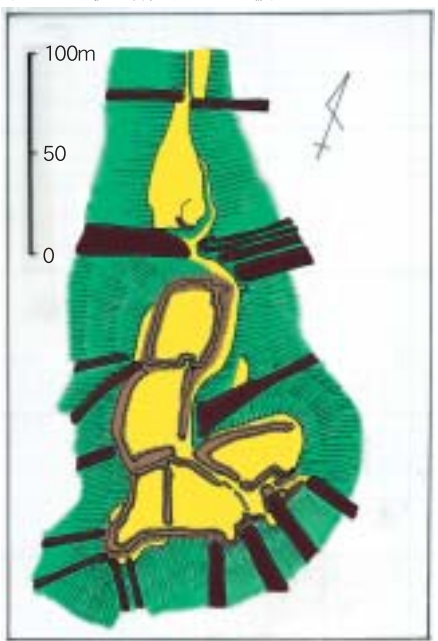
田屋城の城主「田屋氏」は、高島七頭の一人ではありませんが、浅井亮政の女婿として浅井氏の被官となり、浅井氏の高島進出に大きな役割を果たしました。また浅井氏と同盟していた朝倉氏の本拠一乗谷朝倉氏遺跡からは「御者多屋どの」と書かれた木簡が見つかっています。「多屋どの」は「田屋氏」を指し、田屋氏が馬事に優れた一族として、活躍していたことが窺えます。



田屋城は、北陸道と、知内川に沿って若狭に至る街道を見下ろす、「城山」と呼ばれる標高約

三二〇mの山の尾根先端に位置します。城は堅固な土塁で囲まれた、六力所の郭で構成されます。麓から急な坂道を上りきると南東郭の側面の大手口に至ります。この部分には、櫓台を設け、さらに郭の土塁を屈曲させた枡形虎口を造り、横矢がけを意識した堅固な作りとなっています。また、城の斜面には多数の堅堀を配し、攻め手の横の動きを封じています。

通する築城技術が駆使されています。さらに大手口や、主郭の入り口には枡形の虎口を設けるなど当時の先進的な築城技術も取り入れています。このような田屋城の構造は、田屋氏の領地支配のためには不必要なほど大規模かつ堅固なものであり、元龜争乱に際し、浅井、朝倉方の高島進出の橋頭堡として、また信長方の北陸進出を食い止める戦略的拠点として、浅井・朝倉氏により大きな改造が加えられたものとして考えられます。



田屋城縄張り図

城内に入ると広い郭が連続し、郭群の北奥には主郭と考えられるひときわ高い土塁で囲まれた郭があります。この入り口にも大手口と同様、土塁を屈曲させた枡形虎口を設けています。主郭の背後には県下の城郭でも最大級の堀切を設け、背後の郭と画しています。田屋城には、小谷城跡（湖北町）や、上平寺城跡（伊吹町）などにみられる、浅井、朝倉氏の城に共

打下城跡

打下城は、高島郡内で比良山地が最も琵琶湖に近接する丘陵上、標高約三〇mに位置しています。ここからは北方の高島郡一帯や南方の滋賀郡方面、東方の琵琶湖の三方を一望することができます。眼下には洞海（乙女が池）と呼ばれる内湖が存在し、西近江路が通っていました。

この城は清水山城の出城の伝承が残るほか、琵琶湖の制海権の一部を握っていたとされる林員清（與次左衛門）の城と伝えられています。

『信長公記』によると元龜四年（一五七四）信長が高島郡を攻撃した際に林員清の所（打下）を陣所として高島郡内を放火したと記されています。

城には畝状空堀群が認められます。打下城は大溝古城ともよばれ、信長の高島郡攻略後、眼下の琵琶湖に面した地に、甥の信澄によって大溝城が築城されました。



打下城縄張り図



打下城遠景



南虎口



北石垣